



花で潤うコミュニティ

新旧の住宅地が混ざり合う、小山・小山ヶ丘地区。丹精を込めて手入れした個人宅の庭や街の花壇を公開する「小山・小山ヶ丘オープンガーデン」を行っている。開催のたびに庭の公開者や参加者も増え、この春で7回目となる。

そのオープンガーデンに2年前から参加している青木宏子さん。保育園で働く傍ら庭造りが趣味だったこともあり、すでに参加していた園長のすすめで参加を決めた。

イベントの時には、色々な方が庭を訪れ、それが庭造りの新たなモチベーションになっているという。「自分が育てた花を喜んでもらえて、私も嬉しくなるんです」と青木さん。花を通じて近所の方とも話す機会が増え、日常的なご近所付き合いにも変化があったそう。

こだわりは、化学肥料や農薬を使わないオーガニックガーデン。苗からこだわって無農薬のものを仕入れている。これまでは一年草の苗を毎年植え替え

ていたが、今度は多年草にも挑戦してみたいとのこと。この春のオープンガーデンに向けて、現在準備中だ。庭を訪れた人たちと話をするのが今から楽しみだという。

5kmのランニングとジョギングの後、花の手入れをすることが毎日の習慣になっている。「私が手入れしないとお庭がかわいそうになっちゃうでしょ。だから100歳まで元気に生きることが目標です」と力強く語った。



河津桜が花をつけ、春の訪れを待つ。



オープンガーデンでは、満開の花が見られる。



こだわりの庭は四季折々の花を咲かせる。

最新技術を使った上質な体験を子ども達に

町田駅前通りを西に進むと広がる木曽地区。そこでは、安全・安心な暮らしのための取組に力を入れている。その一つが、木曽境川小学校で授業の一環として実施しているAR(拡張現実)の技術を使った災害疑似体験だ。Googleの画面を通して、目の前の小学校に水が迫ってくる様子を視覚的に体験することができる。

この授業をボランティアとしてサポートしている、木曽地区協議会の関谷加由里さん、学校支援ボランティアコーディネーター(以下、VC)の植野友紀子さんと山口早苗さんにお話を聞いた。「前の校長

先生が木曽地区協議会に持ちかけたのが始まりです。地区協議会の中で話し合った結果、子ども達に洪水の危険性を知ってもらうために、是非やろうということになりました」と関谷さん。洪水体験が行われた木曽境川小学校は、境川が氾濫すると浸水してしまう恐れがある場所にある。

「子ども達には、上質な体験をさせてあげたいと思っています。本物と接するとき、子ども達は真剣な顔になるんです。」

10年以上VCとして活動してきた植野さんは、学校と地域をつなぐことで、子ども達の体験学習を支援している。AR災

害体験のほか、本格的な道具を使った生け花やしめ縄づくりなど日本文化を伝える体験も、地元で教えられる人を見つけて実施した。

子ども達が地域とつながりを持つことが大切だと、山口さんは語る。自身の子どもも、地域の中の居場所に助けられたことがあり、その時の思いから地元と子ども達をつなげる今の活動をしているのだそう。地元の人達の手で、木曽にある良いものを子ども達に伝えていきたい一そう語る皆さんの熱い思いが、木曽の子ども達を支えている。



左から山口早苗さん、関谷加由里さん、植野友紀子さん。



感染症対策を講じながらの実施。機器は一回ごとに消毒。



楽しそうにAR災害疑似体験をする子ども達。



木曽地区協議会ロゴマーク。学生が作成したものを、地域の方の投票で選んだ。